



来るべき時に備えて組織の強化を

群馬県山岳連盟

会長 星野 光

群馬県山岳連盟平成十三年度総会は、五月十二日(土)午後五時から上毛会館において、五月定例理事会に引き続き、理事および評議員を集めて開催された。

総会の冒頭に星野会長が開会の挨拶を行い、昨秋、日本山岳協会が主催、群馬岳連が主管して開催された第三十九回全日本登山体育大会が、天候には恵まれなかったけれど参加者に喜んでもらえ、成功裡に終了することができたことを振り返り、また、今日、日本国中が不況にあえいでおり、逆風にさいなまれていますが、来るべき時に備えて組織をしっかり固めて頂きたいと訴えた。

議案審議は、岳連規約に従って議長を会長が担当して進められた。始めに、平成十二年度事業報告(第一号議案)を、女屋事務局長が、総会議案書に従って総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・国体部・海外登山部・自然保護部・事業部・クライミング部の各部にわたって説明を行い、拍手多数で承認された。

続いて平成十二年度会計収支決

算報告並びに平成十二年度基金調書報告(第二号議案)が会計担当の富山副会長によって説明され、これについて竹山幹事から適正に処理されていたとの監査報告がなされ、決算書・基金調書通りに承認された。

次に平成十三年度事業計画(第三号議案)について女屋事務局長から提案され、引き続き富山副会長から提案された平成十三年度予算並びに平成十三年度補助金等の内訳案(第四号議案)とともに一括審議された。

最後に、今夏、本県榛名山塊において開催される第五十六回国民体育大会関東地区大会山岳競技会の会則・組織図・委員名簿(第五号議案)が提案された。上程された議案は議案書通りに承認が行われ、総会の議事を終了し閉会した。

《平成十三年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国体への参加と選手強化

第五十六回国体山岳競技関東地区大会(群馬県)への参加と、新世紀みやぎ国体(宮城県)山岳競技会における好成績達成を目標とする選手強化を推進する。

三、日山協主催行事等への参加と各会との交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化活動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動及び谷川岳等の美化活動等の推進に協力する。

五、岳連会報の発行

『山岳ぐんま』の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓蒙を図る。

六、第五十六回国体関東ブロック大会山岳競技会の準備推進並びに開催

期日 平成十三年七月二十日(金)～二十二日(日)

会場

登攀競技 榛名山町グンサン室田工場跡地
特設クライミングウォール 踏査競技 榛名山天狗山特設踏査コース
縦走競技 榛名山杓が岳特設縦走コース

日程

二十日 受付・諸会議・開始

式・登攀競技

二十一日 踏査競技

二十二日 縦走競技・表彰式

七、海外登山の計画

第九次群馬岳連ヒマラヤ登山を計画する。

八、第十二回山田昇記念杯登山競争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇氏の業績を後世まで伝えるため、登山の基本である体力を競い合い、登山の啓蒙・普及・発展の一助とする登山競争大会を開催する。

期日 十月六日～七日(土～日)
会場 武尊山(利根郡川場村)

九、各種研修会及び講習会の開催

指導員会及び遭難救助隊が主管して一般会員を対象に登山技術講習会を開催し、併せて指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

十、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成十四年版山岳写真カレンダーの作製・販売などの事業を行い、自主財源を確保する。

十一、スキー・山岳博物館資料調査の推進

利根郡水上町に建設が計画されている「スキー・山岳博物館」に展示する山岳資料の調査を推進する。

冬山レスキュー講習会

群馬岳連遭難対策部長 松 永 幸 雄

日本山岳協会主催の冬山レスキュー講習会が、群馬県山岳連盟主管のもと三月十七日〜十八日に谷川岳の土合山の家を会場に開催されました。

当日は日本山岳協会会長坂口三郎氏をはじめ遠く大阪、岐阜等全国各地より四十三名の参加者がありました。群馬県山岳連盟からは名塚副理事長以下十二名が参加しました。

十七日八時より受付を開始し、開講式後実技講習に向けた机上講習を実施。主任講師の日本山岳協会遭難対策委員会常任委員渡邊輝男氏より詳しいピーコンの説明、ツエルトを使ってのシート担架の作り方、搬送方法の留意点等を暖かい室の中で効率的に説明されました。

昼食後、土合山の家周辺の雪の斜面を使って実技講習を開始。雪崩判断と危険の予測のための積雪内部の観察、雪庇の構造の観察と崩壊テスト、弱層テスト等を最新の情報のもとに丁寧な講習が行われました。

実技講習終了後土合山の家に戻り、机上講習として群馬県警谷川岳警備隊長馬場保男氏による「冬山救助の実際」と題しての講演と、

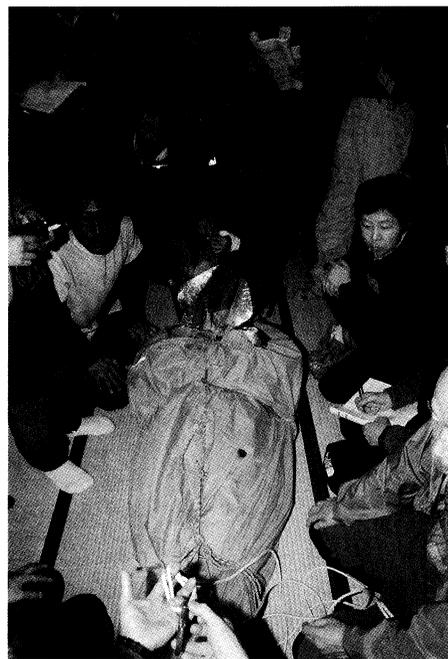
昨年冬の吉尾氏の遭難の際にヘリコプターより撮影された救助活動の映像のビデオが上映されました。

その後、今年の冬山で全国各地で遭難が多発したなか、自力で剣岳の八峰を縦走し山岳雑誌等で非常に高い評価を受けた境町山の会の大山、剣持、福本の三人が講師として、冬の剣での実際の行動と準備段階での様々な工夫、山に対する真摯な取り組み方をスライドを交えて話してもらいました。

彼等の様な行動が出来る遭難事故は激減するだろうという群馬岳連からの発信が出来たと思います。その後の交流会は各地からの大量のお酒で盛大でした。

十八日は七時三十分より実技講習を開始し雪上でのアンカーの取り方、シート担架、しばぞりを使つての雪上搬送法、ピーコンを使つての搜索、ゾンデを使つての搜索、埋没体験、スノーシェルターの製作等、午後一時過ぎまで内容の濃い講習が行なわれました。

遅い昼食後全体のまとめ・講習が行われましたが、山の家の好意的な対応、積雪が多く講習しやすい斜面のある会場、参加者の積極的で意欲的な行動等、好評のうちに終了することが出来ました。



雪上技術講習会

群馬岳連登山指導部長 阿部 源

四月十五日、マチ方沢において、田中成幸氏（アルパインガイド協会）を講師に迎え、二十九名の参加者で、雪上技術講習会を行なった。

その時紹介された新しい技術と話し合われた問題点などを書いてみたいと思う。

コンティニュアスにおいて、余ったロープは、ループを作り、肩にかけて携行していた。

田中講師より紹介されたニュージーランド方式と呼ばれる方法は、手の甲で、ロープを肩の後ろにはね上げるようにし、直接肩に巻いていく。最後は、ロープをブルージックのように巻いていき、

カラビナを通し、固定する。（写真Ⅰ）

すばやく着脱ができるなど有効であると思う。

滑落停止においては、滑落したらスピードが出ないうちに、すばやく体を反転し、ピックを打ち込み、停止するという方法が行なわれてきた。

① 今回紹介された方法は、トを雪面に突き刺し、初期制動をかける。

② 次に足を大きく右左に広げピックを体側に差し、制動をかける。これはフランス式と呼ばれるものである。（写真Ⅱ）

③ それでも止まらない場合は、すばやく体を反転し、滑落停止を行う。
実際の山行で、ザックを背負った場合、いきなり体を反転させるのは、なかなか難しい。これら一連の動きをスムーズに行うことにより、確実な滑落停止ができると思う。

また、うつぶせ状態になった時、アイゼンを上げ、ピックを打ち込むと共に、体を雪面に押しつける体勢が良いとされてきた。

今回、それよりも上半身をのけぞらせ、体を開く体勢で、より強くピックを打ち込むことが良いのでは、と紹介された。（写真Ⅲ）



写真Ⅱ



写真Ⅲ

て、滑落した者が、意識を失うなど、自分で登れないような状況の時、確保者は、どのようにして自己脱出したらよいか話題になった。

普通は、その場にしゃがみ込み、ロープにブルージックやフレンチをセットし、カラビナに結ぶ方法である。

しかし、この方法は体勢をくずし、つぶされてしまう場合が多く、大変な力が必要とした。以前の講習会でも、もっと簡単な方法はなにかと話し合われ、次のような方法が提案された。

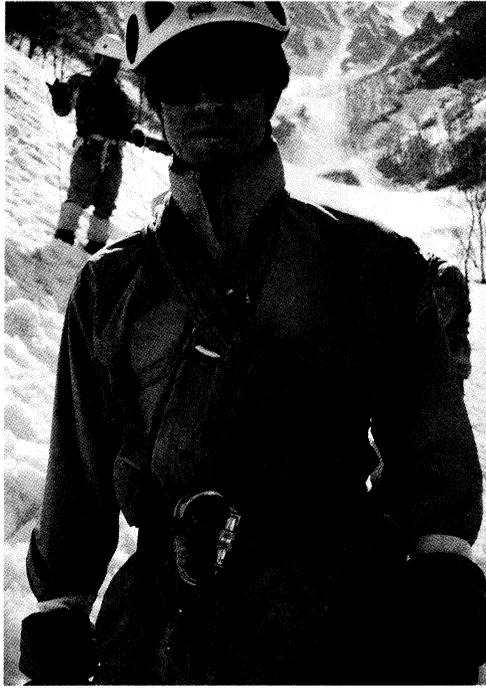
一つは、確保した体勢で、カラビナの上のロープにユマール等をセットし、ロープを流して止める。

ユマールが無い場合は、ロープにカラビナをインクノットでセットし、ロープを流して止めるなどである。

これらは簡単にできるが、ロープを流すのは良くないとの意見もあり、また、上方に荷重がかかっている場合は、自己脱出そのものが難しいなど、今後、研究しなくてはならないと思う。

今回の講習会は、普段出てこない山岳会の参加や、栃木県から三名の方の参加があった。

今回の講習会で、山の技術は、日々新しく進化していることを強く感じた。指導委員会もそのことに対応できるよう活動していきたい。



写真Ⅰ

第五十六回国民体育大会

関東ブロック大会山岳競技会について

群馬岳連国体部長 角 田 二 三 男

期日 平成13年7月20日～22日
日程および会場

20日(金)

開始式(榛名町役場) 登攀競技

(特設クライミングウォール)

21日(土)

踏査競技(榛名山天狗山特設踏

査コース)

22日(日)

縦走競技(榛名山杣が岳特設縦

走コース)表彰式(榛名町役場)

宮城国体出場都県数

少年男子 2

少年女子 2

成年女子 3

今年度は八年ぶりの群馬県開催であり、踏査競技は今回限りで、来年度(高知国体)からは少年の部にもクライミングが導入される。踏査競技を得意とする少年男女は何としても頑張つて出場権を獲得して欲しい。また、成年女子には昨年以上の力を発揮して宮城での上位入賞を果たすよう期待する。

なお、本大会には約80人程の競技役員を必要とします。群馬岳連の会員の皆様には大変お世話になります。大会の成功と群馬県選手活躍のために、是非ご協力をお願い致します。

平成12年度関東地区審判員研修会

1月27日(土) 28日(日)の二

日間にわたって前橋の上毛会館において群馬岳連の主管で開催された。当日は大雪に見舞われて欠席や遅刻が出たが、関東8都県から35名が参加、開会を少し遅らせて実施された。認定研修では国体規則の講読を中心に、運営研修では富山国体の報告などをもとにして研修した。

本県からは認定研修(資格取得)に齊藤長作、新井好司、長田まり子の3名、運営研修に小林元雄、大澤清、水野金太郎、松田龍彦、小屋喜美子、木村正巴、角田二三男、茂木稔、赤松久宇の9名、八木原冨明理事長、女屋等志事務局長が出席した。
講師 太田忠行、岡本安夫
(日本山岳協会国体常任委員)

県体協平成12年度総合一貫強化対策アドバイザー事業

県体協補助による本事業は二年目を迎え、12年度は榛名山黒岩、万場高校、水上町水紀行館を会場に計4回クライミング講習会として実施された。

万場高校では1泊2日で行われ、

高体連の生徒が多く参加した。

講師 飯山健治

(日本山岳協会クライミング委員)

なお、本県には県央部に公設の

クライミングボードが無いので、

早急に設置されることを要望する。

平成13年度県民体育大会第二部山岳競技会(国体予選)

今年度の県予選会は榛名山で開催された。

4月21日(土) 開会式、踏査競技

22日(日) 縦走競技、閉会式

◆少年男子

1位 松本 大(前橋高)

2位 高橋 昭彦(前橋高)

3位 井上 貴智(沼田高)

4位 須藤 俊英(高崎工)

5位 齊藤 大(渋川高)

6位 山口 尚己(高崎工)

◆少年女子

1位 椎原 優子(沼田女)

2位 田口 照子(沼田女)

3位 川口 泰子(沼田女)

4位 蘭田 佳子(沼田女)

5位 石村 梨紗(高経附)

6位 桑原 悦子(伊勢女)

◆成年男子

1位 広瀬 昭典(高体連)

2位 林 幸男(太田)

3位 阿部 源(大間々)

◆成年女子

1位 法領田 恵(太田)

2位 女屋寿美子(前橋)

3位 加藤 揚子(沼田)

これからの自然保護

群馬岳連自然保護部長 小 泉 俊 夫

自然保護について振り返ると、かつての尾瀬の保護や、世界遺産として後世に伝えるべくして多くの人々が立ち上がった白神山地の頃に比べ、やや活動が衰退した感がある。

そんな中で群馬岳連自然保護部での活動も、従来のゴミ・缶拾い型自然保護から、平標山のように自然を残すためのものと変わってきた。

今、県内の山々の荒廃は進み、ことに山頂付近は顕著の二文字に値する。例をあげれば、以前から自然保護パトロールに参加していた平標山より仙の倉山へのコル界限や谷川岳山頂周辺は、ゴミや空き缶こそ見えないが、植生の踏み荒らされた跡には目を覆うばかりである。とは言え、その悲嘆も何十年と登り続けた経験によってこそ感じ得るものであり、昨日今日登った人であれば今の現状をこそ「当たり前」の状態と誤認してしまおうだろう。素人目には草も何もない石くればかりなのだから、場所をいわず足を踏み入れてしまおうのである。

現在のように観光地化した谷川岳には早急なる保護活動が必要で

ある。例えば植生の復旧、理由を明記した上で立入禁止区域の策定、観光開発の尺度等への意見箱の導入等、山屋として何か提案できないだろうか。

このように自然保護部での活動も、パトロール型から提案・啓発型への移行を強めなければならぬのではと思う。

これからの自然保護は、三十年前・四十年前との変貌がわかる岳連会員達が地元市町村を含めた有識者達と共に勉強し合い、地元市町村あるいは県や国など関係機関に対して要望なり提案なりするなどして、今ある自然を守り、復旧し、そして育み共生していかなくてはならないのではないだろうか。改めて啓蒙活動も視野に入れ、二十一世紀への活動を踏み出したい。

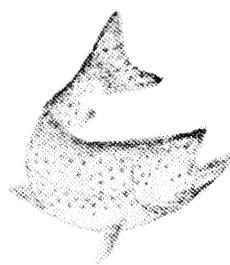


味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna

墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店



高 橋 石 杖

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL: 03(5245)0511
FAX: 03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

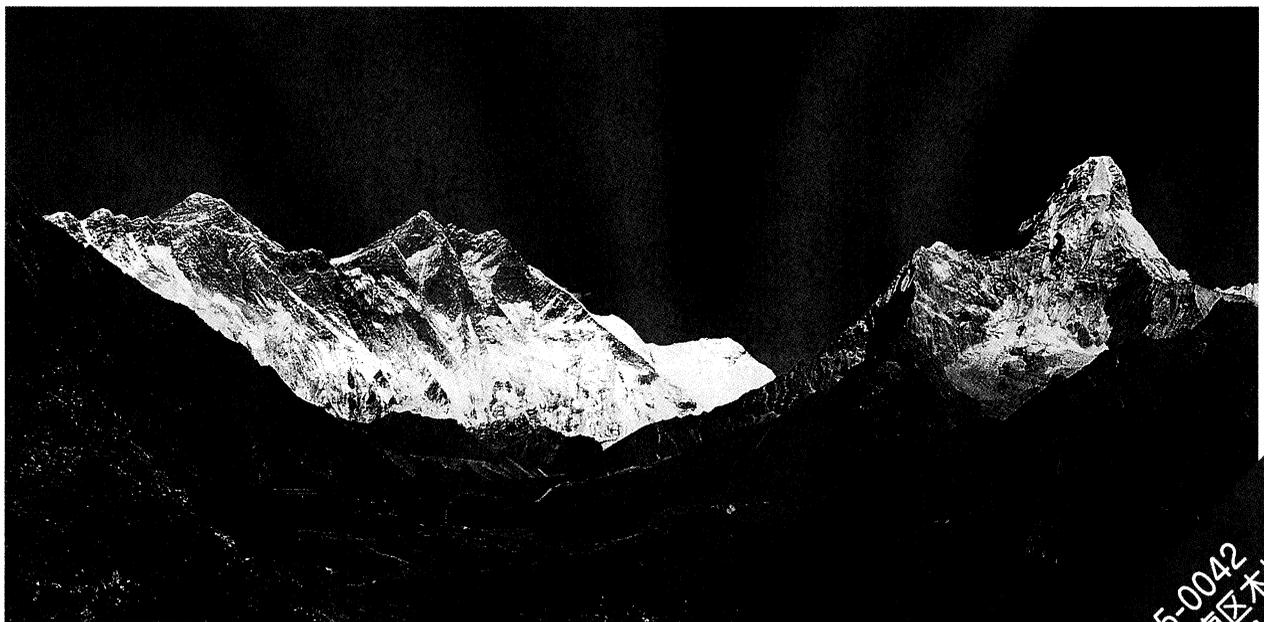
トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

F135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業
萬屋建設株式会社

会長 星野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
 ■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店
有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場
建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業
株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション
萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964